

# 強者の戦略

変わらないでいることは、変わり続けること以上に困難なことかもしれません。

今この文章を読んでいる貴方は、昨日の貴方とは幾つもの点で異なっているでしょう。毛髪の長さは昨日とは違っているでしょうし、体重にも多少の増減があるでしょう。体調や機嫌の良し悪しも、昨日と全く同じということはないでしょう。そもそも、今の貴方は昨日の貴方よりも1日長く生きているのですから、その1日分の『歴史』が貴方を昨日とは違う存在へと変えている筈なのです。もっとも、その『歴史』が貴方という存在のアイデンティティを揺るがすほどの変化をもたらすかどうかは、全くの別問題ですが（ごく個人的なことを言えば、私はこの文章を通じて貴方にその変化をもたらそうと試みています）。

昨今、2020年に向けた新たな入試制度をめぐる議論が活発化しています。具体的に何がどう変わるのかは今後の展開を見守る他ありませんが、現行の教科の枠組みすら超えてしまいそうな勢いすらある中で、相も変わらず「英語」という旧態依然とした枠組みの中でこの原稿を書いているという自分のこの状況には苦笑を禁じ得ません。その一方で、果たして2020年になった途端に大学——強者を志す貴方が目指すにふさわしい大学——が受験生に求める力の種類や質が劇的に変化することがあるのだろうか、と問われると、私は俄には首肯しかねます。少なくとも、それぞれの大学がこれまでに確立してきた、いわばアイデンティティとでも言うべきものを粉微塵に吹き飛ばすほどの破壊的变化は生じないだろうと私は考えます。もちろん、時代に応じて求められる力の種類は変わるでしょうし、それほど重要視されなくなる力もあるのかもしれませんが、ですが、入試問題の根底に流れる受験者へのメッセージは、たとえ科目融合などにより外面的な変化が生じたとしても、やはり変わらないのではないかと思います。だからこそ、過去問研究は今後もしかなくは入試対策の王道となってゆくでしょう。

前置きが長くなりました。はじめての方は、はじめまして。以前からご愛顧頂いている方は、お久しぶりです。研伸館の池吉です。今年度も私が問題を提供してゆきます。

今回は、1977年の京都大学の問題からの出題です。設問形式は、和訳×英作文という近年の出題形式とは大きく異なっています。果たしてこの年の京大英語は現在とは全くの別物なののでしょうか、それとも根底には一貫して変わらない何かがあるのでしょうか。それを見極めて欲しいと思います。

それでは、解説編で再びお会いしましょう。

# 強者の戦略

問 次の文章の中から、設問の求める箇所を選び出し、それぞれの解答欄に記入せよ。

Quantitative changes suddenly become (1)qualitative changes. Water grows colder and colder and colder, and suddenly it's ice. The day grows darker and darker, and suddenly it's night. Man ages and ages, and suddenly he's dead. Differences in degree lead to differences in kind.

All my life I'd been deciding that specific things had no intrinsic\* value—that things like money, honesty, strength, love, information, wisdom, even life, are not valuable in themselves, but only with reference to certain ends—and yet I'd never considered generalizing from those specific instances. But one instance was added to another, and another to that, and suddenly (2)the total realization was effected—nothing is valuable in itself; the value of everything is attributed to it, assigned to it, from outside, by people.

I must confess to feeling in my tranquil way some real excitement at the idea. Doubtless (as I later learned) this idea was not original with me, but it was completely new to me, and I delighted in it like a child turned loose outdoors for the first time, full of scornful pity for those still inside. Nothing is valuable in itself. Not even truth; not even (3)this truth.

On that morning I had opened my eyes with the resolution that I would destroy myself; here the day was half spent, and a premise was springing to my mind, to justify on philosophical grounds what had been (4)a purely personal decision. To realize that nothing is intrinsically valuable had such an overwhelming effect. But if one goes no further and destroys oneself (5)on principle, one hasn't reasoned completely. The truth is that nothing makes any difference, including that truth. Hamlet's question "to be or not to be" is absolutely meaningless.

注 \*inherent or essential

- (1) “qualitative changes”と同じ内容の表現。
- (2) “the total realization”の基盤となった考え方が、最も簡潔に表現されている箇所。
- (3) “this truth”の内容を表している文。
- (4) “a purely personal decision”の内容を述べている箇所。
- (5) “on principle”と同じ内容の表現。

From: Kyoto University, 1977